

目的 着心地のよい外観の美しい衣服の設計のために、上半身衣服の胴部と袖部について検討した。ブラウスの着用状況を調査し、これに基づいて、素材の異なる同一パターンの上半身衣服を製作し、年齢の異なる女子が着用したときの着用感、外観の相違を考察する。

方法 上半身衣服は、FIT方式によりボディ寸法を基にベーシックな製図を行なった。これを標準サイズMとして、既に報告した標準偏差値¹⁾を使用して、青年女子用、高齢女子用にそれぞれM±σ、M+2σサイズのグレーディングを行なった。これは、同じ、グレーディングをした場合の、年齢による、不適合部位の差異を明らかにするためである。素材の選択は、婦人服の最適シルエットデザインの客観的評価法²⁾を適用して、シルエットの異なる布4種を選定し、上半身衣服を製作した。そして、これらの衣服を着用したときの着用感、肩、背肩幅、腕付根部、上腕部、頸付根部などにチェックポイントを設定し、静止時、動作時のフィット性、しわなどの外観の官能評価を行なった。

結果 ベーシックな同一パターンで素材の異なる上半身衣服を着用した結果、高齢女子は、どの素材においても肩部腕付根部周辺、頸付根部前部中央でつれじわのみられるものが多く、着用感も低い評価であるが、青年女子は素材によって人体へのフィット性が異なり、ドレープ性を主張するシルエットに適する素材ほどつれじわ、余りじわの少ない傾向がみられ、素材によって外観、着用感は異なり、素材に適した衣服設計の必要性が示唆された。

- 文献 1) 井上尚子, 中保淑子; 家政誌, 41, 428 (1990)
2) S.Kawabata and Masako Niwa; International Clothing Science and Technology, in press